

## 中野千秋先生への謝辞<sup>1</sup>

横田理宇\* 寺本佳苗\* 藤野真也\*\*

中野先生が退任されるという事実にはまだ実感がわかない。まだ研究者として、そして教育者として第一線で活躍できる実力をお持ちであるわけだが、定年の節目ということで本当に残念である。私達3名は、学生時代から着任後までずっと先生にお世話になってきた。未だ恩返しもできていない。そこで、この場をお借りして、せめてお礼の言葉だけでも述べさせて頂けると幸いである。本稿であるが、まずは次節にて先生の教育・研究を振り返らせて頂きたい。そして、続く節で3名それぞれの先生との思い出とお礼の言葉を述べさせて頂ければと思う。

### 中野先生の教育・研究

中野千秋先生は、1993年4月に麗澤大学国際経済学部にて専任講師として着任された。国際経済学部が立ち上がって2年目の年である。それ以来、現在まで教鞭を取られ多くの学生たちを世に送り出してきた。学部では2005年4月から2010年3月、および、2013年4月から2014年3月までの長きにわたり教務主任を務められ、2014年4月から2019年3月までは経済研究科の研究科長も務められた。先生の教育の歩みは、まさに麗澤大学経済学部・経済研究科の歩みとともにあったと言える。少人数教育が看板の麗澤大学にあっても、学部では毎年多くのゼミ生を輩出する人気ゼミであった。懸賞論文・卒論コンテストでは多くの入賞者を出しており、質の高い研究が要求される厳しいゼミでもあったわけだが、やはり人気の裏には先生のお人柄があったのだろう。先生がゼミ生についてお話されるときは常に優しいお顔と語り口で、きっとどの学生に対しても思い入れがあるのだろうと強く感じるわけである。しかし、それだけ熱心な指導をされているにも関わらず、「こうしてあげればもっとよかった」と反省の念を口にされる。そのよ

うな先生のもとで学べた学生たちは幸せ者である。かくいう私達も学部や大学院時代に先生の教育を受けた者であり、幸せのおすそ分けを頂いている。

そのような質の高い指導の背景には、先生の学術研究に対する謙虚さや真摯さがあったことは間違いないだろう。先生は、経営学の中でも企業内部の人やグループの行動に焦点をあてる組織行動論がご専門であり、企業倫理について組織行動論の視点からアプローチした研究で同分野における日本の研究をリードされてきた。研究においてはテーマやリサーチクエスションのユニークさだけでなく、科学的な方法論を非常に大切にされた。おそらく、着任前に米国に留学された経験が大きく影響しているのだと思われる。先生が麗澤大学に着任された1990年代前後の経営学界隈では、米国のビジネススクールを中心に、理論を伴った一般性の高い知識体系の確立を目指して、経営学の科学化が進められていた。従来の経験談的記述のような研究でなく、厳密な方法論に基づいた堅牢な研究である。先生はそのような時期に米国に留学され実証研究の方法論を学ばれた。先生のご専門である企業倫理という規範論が中心であった分野において、社会科学的手法を用いた実証研究を追求された点は、日本における同分野の発展に大きく寄与したことは間違いない。

そこで、少し恐れ多いが、以下では、テキスト分析を通じて先生の研究業績を少し振り返ってみたい。分析対象は先生の著書2冊および学術論文48本、ワーキングペーパー(WP)4本のタイトルである。なお、英文文献については分析の都合上、日本語訳したものを用い、アプリケーションはKH Coderを使用した。

表1は前処理後に抽出された全138語のうち3回以上出現した語のリストである。「倫理」「企業」「日本」といった語が頻出していることから、言うまでもなく、日本にお

<sup>1</sup> 本稿の執筆は、本誌編集長である国際学部のラウシンイー先生から思いがけずお声がけ頂いたところから始まった。本来であれば中野先生とともに麗澤大学の歴史を作ってこられた先生方が書かれるのが筋であると思う。そのような中、中野先生にご指導頂いた私達にお声がけ頂き、今回このような機会を作って頂いたラウ先生に心よりお礼申し上げます。また、中野先生の略歴をまとめるにあたってご協力頂いた経済学部の佐藤政則先生、高巖先生にも感謝申し上げます。

\* 麗澤大学経済学部

\*\* 麗澤大学国際学部

表1 著書・論文・WPのタイトルにおける頻出語

順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度	順位	語	頻度
1	倫理	48	9	倫理的	10	17	確立	6	25	決定	3
2	企業	45	10	向ける	9	18	実証	6	26	現状	3
3	日本	29	11	実態	9	19	可能性	4	27	個人	3
4	組織	16	12	管理者	8	20	文化	4	28	考察	3
5	調査	15	13	風土	8	21	意思	3	29	試み	3
6	研究	13	14	経営	7	22	環境	3	30	社会	3
7	制度	12	15	定期	7	23	韓国	3	31	取り組み	3
8	比較	10	16	報告	7	24	経営者	3			

ける企業倫理について取り組まれてきたことがわかる。では具体的にどのようなテーマで研究に取り組まれてきたのかをみてみよう。図1は、抽出された語のうち3回以上出現する語について、Jaccard係数を用いて共起ネットワークを作成したものである。やや主観的ではあるが、この図から、1) 企業倫理に対する管理者の取り組みの比較、2) 企業倫理の制度化に関する実態調査、3) 組織における倫理的意思決定や倫理的風土の大きく3つの領域で研究されていたと言えそうである。

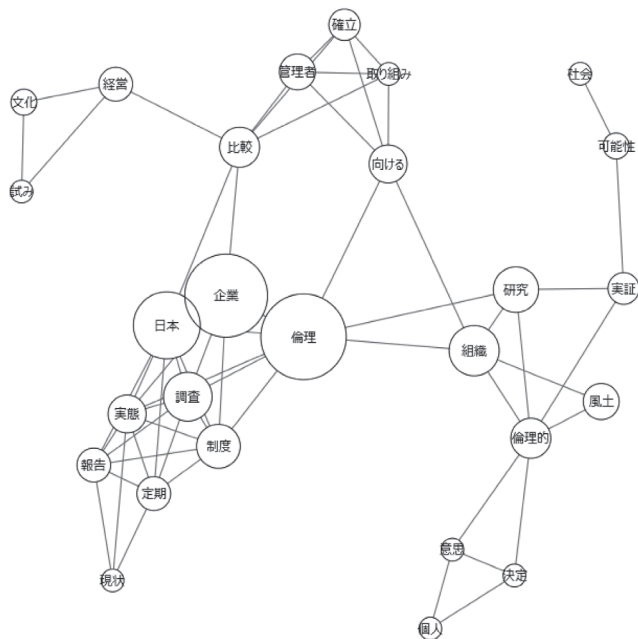


図1 著書・論文・WPのタイトルにおける語の共起ネットワーク

次に、単著または共著での研究テーマに違いがあるのかを確認する。研究者は共同研究を行う際、自身の研究関心と相手の関心とをすり合わせて研究を行う事があり、単著の場合とテーマが異なる場合があるからである。なお、先生は単著で21本、共著で33本の著作を出されている。図2は単著／共著別と3回以上出現した語との対応分析結果である。ここから、先生は単著では、組織における個人や管理者、経営者の倫理に関する研究を行っており、組織論の中でも先生のご専門である組織行動論（ミクロ組織論）に近い分野でのテーマ設定がなされていることが推測される。また、共著では、倫理制度や倫理風土、および、それらに対する取り組みについての実態調査・比較に取り組ん

でおり、経営組織論（マクロ組織論）に近いテーマ設定であることがわかる。このあたりに共著者との専門や興味の差異が表れているのだろう。

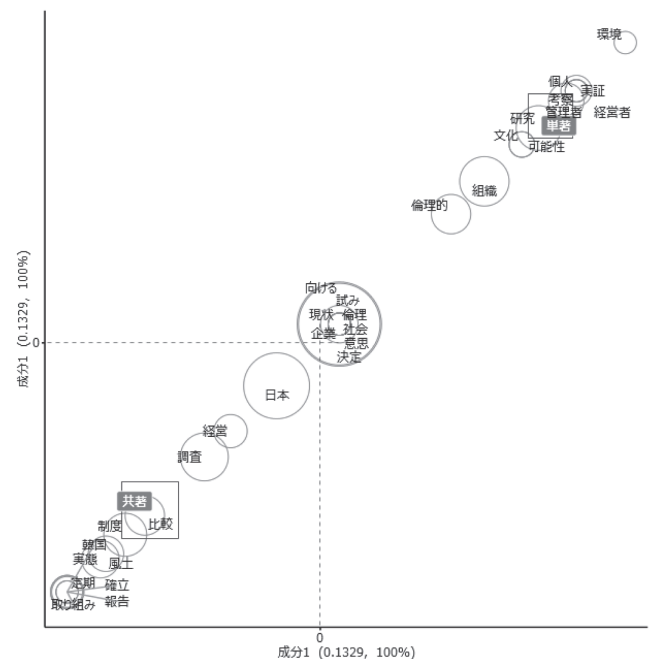


図2 著書・論文・WPのタイトルにおける語と単著・共著別の対応分析結果

最後に、先生の年代別における研究テーマの変遷をみてみよう。研究者はその時々興味関心やそれまでの研究成果に応じてテーマを変更・深化させるからである。ここでは、1980年からの10年区切りで4分類し分析を行った。なお、各年代における著作数は、1980年代が6本、1990年代が15本、2000年代が22本、2010年から現在にかけて11本となっている。図3は年代別と3回以上出現した語の対応分析結果である。先生が研究者として駆け出した頃である1980年代に特徴的な語は、「経営」「文化」「比較」などであり、日本企業の組織文化などに関心を持たれていた様子が伺える。次に、1990年代から2010年代までを俯瞰してみると「組織」「倫理」といった語が3つの年代の中心付近にあることから、1990年代に研究の軸足を企業倫理に定められたと推測される。おそらく組織文化における倫理的側面に注目された結果なのではないかと思われる。2000年代では、「個人」「経営者」「意思」「決定」「制度」「現状」「確立」などの語が付近に表出しており、組織における倫

理的意決定や企業倫理制度の現状およびその確立などのテーマに取り組まれていたことが見て取れる。この時期は日本でもCSRなどが注目され始めた時期であり、まさに時宜を得た研究テーマであったといえるだろう。そして、2010年代では、「風土」「管理者」「実証」「韓国」などの語が表出しており、倫理的風土の実証研究に取り組まれるとともに、日本のみならず海外を射程に入れた調査研究を行われていたことがわかる。実際に、この時期には韓国や中国の研究者との共同研究もされグローバルに活躍された。

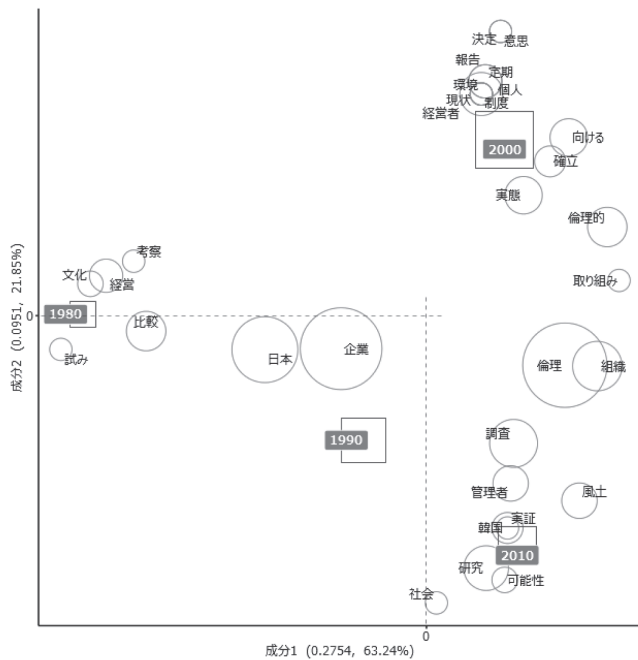


図3 著書・論文・WPのタイトルにおける語と年代別の対応分析結果

以上のように、先生は日本企業の組織文化をテーマに研究者としてスタートされ、1990年代以降、一貫して企業倫理に興味関心を持ち研究を進めてられてきた。そして、個人研究では組織の従業員や管理者の倫理について、共同研究では日本や東アジアにおける企業倫理の制度化に関する調査研究などで成果を出されてきた。日本から始まった研究はアジアへと展開し活躍のフィールドをグローバルに広げられたのである。

### 中野先生のご指導を振り返って（横田理宇）

中野先生に初めてお会いしたのは2007年の麗澤大学大学院入試説明会の終了後、先生の研究室にお邪魔させて頂いたときである。筑波大学で修士課程を修了し企業に就職した私だが、3年ほど経ち、また研究をしたいという思いを強くしていた。麗澤卒業生との縁もあり、麗澤大学で博士課程に進学することを考え始め、大学院のウェブサイトを見ていたら、一人の研究者のインタビュー記事が目がとまった。「データに語りしめる」という見出しがついていた。修士課程で実証研究をかじった私は「なにやら面白そうだ」と感じアポイントメントを取らせて頂いたわけである。

当日研究室にお邪魔すると、机の上には本や書類の山がいくつもあり、これぞ研究者というお部屋であった（先生、

今も変わりませんね、いや、もっと高くなったかも）。私が座る前の部分だけ何もなかったので、おそらく私のために空けてくれたのだろう。先生はとても気さくに話を聞いてくださり、当時考えていた私なりのリサーチクエストに対して、「こんな方法があるかも」と優しく答えてくださった。先生に指導をお願いすると決めた瞬間だった。そして受け入れて頂いたわけである。

しかし、当初は思うように研究が進まなかった。学部で経済学が専攻だった私には、経営学の基礎知識が圧倒的に足りなかったのである。修士課程は狭い知識で済んだが（済ませた？）、博士課程ではそうもいかなかった。そこで先生は、「5年くらいかけてゆっくりやろう、1年目の残りは組織論の復習をしながらテーマを考え直そう」と仰ってくださいました。だいふ気持ちが楽になったのを覚えている。

社会人院生ということもあり、仕事を尊重して下さっていたのだと思うが、進捗状況がよくないときには、内心思うところもあったのではないかと思います。それでもいつも穏やかな笑顔で、時間をかけてじっくりと指導してくださいました。むしろ躓きどころや時間がかかりそうな点もすべて見越して、私が自分で気づき進められるよう指導して下さいていたのだと思う。最も印象に残っている言葉は、「もう少しデータと戯れてみたら」というもので、インタビューの膨大なテキストデータをどう分析するか悩んでいたときに頂いた言葉である。実は先生も博士論文を纏めるときに同じように悩んだことがあり、そのときに恩師に頂いた言葉だそう。いつか私の指導する学生が同じように悩んでいたら、私もこの言葉をかけようと密かに考えている（私の場合、効果があるか定かではないが）。

私は2014年に博士課程を修了し、その後は会社勤めを続けつつ、麗澤大学企業倫理研究センターや公益財団法人モラロジー研究所でお世話になり研究を継続してきた。先生はつねに私の研究を気にかけてくださった。私も締め切り直前にも関わらず、気軽に投稿論文の原稿確認をお願いしてしまっていた。先生は何事もなかったかのように当日か翌日には的確なコメントをしてくださる。お忙しい中迷惑だったに違いない。しかし、これに味をしめた私は、毎度無理を承知でお願いするわけである。本当に迷惑千万、教員の立場になって今更反省である。2018年に麗澤大学に着任した後も、授業の内容や進め方など、教育の面でも色々とお相談させて頂いた。当然のごとく毎回の確かなアドバイスをくださった。言葉では言い表せないくらいお世話になってきたわけである。

本当は、まだまだ近くでご指導頂きたいのだが、今回の節目に退任されるということで、私もそろそろいい年なのだから独り立ちしなさいということなのだろう。先生からご指導頂いた点を胸に抱き、これからも精進していく所存である。先生、どうもありがとうございました！そして、お疲れさまでした！（といいつつも、今後も研究等で迷ったときはお付き合い下さい…笑）

## 中野先生との思い出（寺本佳苗）

中野先生を思い浮かべると、沢山の書類が入りそうな肩掛けカバン、ピンとした背筋での早歩き、笑顔、タバコ、そして、助けてくださったいくつもの場面が蘇る。先生に助けられた場面は博士論文の執筆において、就職活動で悩んでいる時、研究の場を探していた時など多岐に渡るが、今回は研究者としての先生を物語る場面について記したい。

中野先生の研究への眼差しは常に真摯で公正である。私の中野先生に博士論文の副査としてご指導をいただけたことは大変な幸運であった。中野先生は穏やかな雰囲気身をまとい、わかりやすい言葉、明快なロジックで指導をしてくださった。研究に真摯で公正であるがゆえ、ご指摘いただく内容は厳しいもので、要求水準に達しない自分を悔しく思ったことは一度や二度ではなかった。とりわけ、研究の方法論についてご指導いただくことが多かった。

私は博士論文である企業の調査研究を行った。様々なご協力を得て多くの情報を得ることができたが、その情報に溺れてしまうことがあった。中野先生は溺れている私を見つけては、その時に学ぶべき方法論を段階的に丁寧に教えてくださった。なぜ調査研究でなければならないのか、どのような問いを立てるか、また、問いを深めることを通じて価値ある情報をいかに生み出すか。辛抱強く研究を見守り私に向き合い、要所所で救い上げてくださった。博士論文の見通しが立つ頃には、方法論が分かるようになっていた。研究の方法論は重要なため、どの大学でもこのようなご指導を受けられると思っていた。しかし、数年後に驚くべき発見があった。当時の同僚が海外ジャーナルに挑戦した際に、研究の方法論について論文修正の指摘を受けたという話を聞いた。指摘されたその内容は、中野先生が教えてくださった内容そのものであった。研究を始めたばかりの学生が「分かる」まで研究の方法論を指導することの難しさ、学んだことの貴重さを強く感じた。常に同じ眼差しで指導をしてくださったのは、中野先生の研究者、そして教育者としての信念の表れであると思う。

ここまで記すと、厳しい側面だけを学生に見せたのかなと思われるかもしれないが、実はそうではない表情も見せてくださった。私が大学院生の頃のある日、「もうタバコをやめたよ」と嬉しそうにおっしゃった。しばらくすると、強めのタバコを吸っておられた。さらに数年後、学会の研究会后に「じゃ、僕はここで。今から予約していた電子タバコを受け取りに行くんだ。またね。」と軽い足取りで去って行かれた。この話をすると「何年前の話をしているのよ」と、笑いながらタバコを吸う中野先生を思い出す。中野先生の緩やかな側面を見続けた、笑顔になる思い出である。

中野先生の研究への真摯で公正な姿勢は、中野先生のお人柄も表していると感じている。人への向き合い方も真摯さと公正さが貫かれている。どのような場面でもその姿勢を崩さない先生を尊敬している。中野先生より教えていただいた真摯さと公正さを大切に繋いでいきたいと思う。中野先生、どうもありがとうございました。

## 中野先生への感謝の言葉（藤野真也）

私が中野先生に初めてお目にかかったのは、麗澤大学に入学して間もなく、中野先生の研究室にご挨拶に伺ったときである。私は他大学で修士課程を終え、企業倫理の研究者を志して、麗澤大学で博士課程の研究を始めたところだった。その後、大学院にて、先生の経営組織論の講義を聴講させていただくことになった。

それ以来、中野先生には、格別にご目を掛けていただいた。入学して一年目であったか、大学院の合宿で谷川のセミナーハウスに同行させていただいた時、先生に「藤野さんは昔からずっと麗澤にいるかのように馴染んでいるね」と声を掛けていただき、大変嬉しく感じたことを覚えている。先生は常に、私を一学生というよりも「麗澤のメンバー」として見ていてくださったのだと思う。

私の博士論文の審査においては、学内審査委員を務めていただき、研究の方法論を中心に、多くの貴重なご助言をいただいた。それまでは、優しい印象だった先生が、私の博士研究の最終局面で、非常に厳しい側面を見せてくださったが、それを通じて、先生の真の優しさを垣間見ることができた。

その後、私は2年間のポストドクターを経て、麗澤大学の専任教員として迎えていただくことになった。麗澤大学の大学院を修了した私にとって、麗澤の先生たちと共に仕事をさせていただくことは、畏れ多く、身の引き締まる思いがしたが、とりわけ中野先生と一緒に仕事をするには、緊張を感じた。

しかし、新学部の設置準備会議やカリキュラム再編の会議においては、右も左もわからない私に、経営学の理想的な教育体系を踏まえた、カリキュラム設計を丁寧に指導してくださった。一緒に仕事をさせていただくなかで、中野先生の気さくな側面や、学部学生に接する優しい態度を拝見するにつれ、徐々に私の緊張も和らぎ、本当の意味で先生に親しみを感じるようになった。先生がご退職されると伺ったのは、そんな矢先のことであった。

中野先生は、いつも謙虚でありながら、正直で、まっすぐなお考えをお持ちの方だと思う。大学院時代にも、専任教員になってからも、中野先生と接するなかで常に感じてきた印象である。どんな状況でも、正しいと考えることを貫く姿勢は、先生が企業倫理の研究者であるとともに、実践家であることを強く感じさせる。先生は、麗澤大学の将来のことを常に真剣に考え、ご退職以降の大学のために、有形無形の財産を残してくださった。先生の思いを心に刻み、研究者として、また教育者として、歩みを止めずに前に進みたい。



## 中野 千秋 教授 略歴

### 生年月日

1955年11月10日生まれ

### 学歴

1974年3月 麗澤高等学校 卒業  
1978年3月 東北大学経済学部経営学科 卒業(経済学士)  
1982年3月 慶應義塾大学大学院修士課程商学研究科 修了(商学修士)  
1985年3月 慶應義塾大学大学院博士課程商学研究科 単位取得満期退学  
2001年5月 米国ジョージワシントン大学経営行政大学院博士課程管理科学学科 修了(Ph.D.)

### 職歴

1979年4月～2007年3月  
財団法人モロロジー研究所研究部 研究員  
(経済研究室)  
1987年4月～1989年3月  
麗澤大学外国語学部 非常勤講師  
1988年9月～1990年8月  
米国ジョージワシントン大学経営行政大学院  
客員研究員  
1993年4月～1997年3月  
麗澤大学国際経済学部 専任講師  
1997年4月～2002年3月  
麗澤大学国際経済学部 助教授  
2002年4月～2008年3月  
麗澤大学国際経済学部 教授  
2003年4月～2012年3月  
麗澤大学大学院国際経済研究科 教授

2008年4月～2020年3月  
麗澤大学経済学部 教授  
2012年4月～2021年3月  
麗澤大学大学院経済研究科 教授  
2020年4月～2021年3月  
麗澤大学国際学部 教授

### 学内役職

2005年4月～2007年3月  
国際経済学部 教務主任(学生担当)  
2007年4月～2008年3月  
国際経済学部 教務主任(教務担当)  
2008年4月～2010年3月  
経済学部 教務主任(教務担当)  
2009年4月～2012年3月  
企業倫理研究センター 副センター長  
2013年4月～2014年3月  
経済学部 教務主任(学生担当)  
2013年4月～2017年3月  
企業倫理研究センター センター長  
2014年4月～2019年3月  
経済研究科 研究科長  
2018年4月～2019年3月  
企業倫理研究センター 副センター長

### 受賞等

2010年9月 麗澤大学教育奨励賞  
2019年12月 千葉県私学教育功労者表彰

### 所属学会

Academy of Management

International Society of Business, Economics, and Ethics

Society for Business Ethics

経営哲学学会

組織学会

日本経営倫理学会 理事 (2007年6月～2015年6月)

副会長 (2015年6月～2019年5月)

人を大切にする経営学会

副会長 (2014年9月～2020年3月)

### その他の活動

2002年7月～2018年11月

Journal of Business Ethics Education 編集委員

2002年7月～2016年6月

国際連合グローバルコンパクト ラーニング・フォーラム メンバー

2002年10月～2017年6月

企業社会責任フォーラム 幹事

2009年5月～2016年4月

国土交通省関東地方整備局コンプライアンス・アドバイザリー委員会 委員

2010年5月～2013年3月

柏市行政改革推進委員会 委員

2014年4月～2019年3月

学校法人廣池学園 評議員

2015年6月～現在

福留ハム株式会社 社外取締役

2019年4月～現在

公益財団法人モラロジー研究所 評議員

### 書籍

中野千秋・高巖編 (2016) 『企業倫理と社会の持続可能性』麗澤大学出版会

Nakano, C. (2001) *Ethics-At-Work in Japanese Business: An Empirical Study of Japanese Managers' Perceptions of Ethics in Their Corporate Lives*, Ann Arbor: Bell & Howell.

### 論文

山田敏之・中野千秋・福永晶彦 (2020) 「組織の倫理風土と非倫理的行為：日本企業における実証研究」『日本経営倫理学会誌』27, 187-204.

Choi, T. H., Nakano, C. (2018). Ethics in Japan and South Korea, pertaining to business enterprises. *Human Systems Management*, 37(1), 129-149.

中野千秋・山田敏之 (2016) 「日本企業における倫理確立に向けての取り組みと管理者の倫理観：1994年、2004年、2014年の調査結果の比較をふまえて」『日本経営倫理学会誌』23, 123-139.

山田敏之・中野千秋・福永晶彦 (2015) 「組織の倫理風土の定量的測定：Ethical Climate Questionnaireの日本企業への適用可能性の検討」『日本経営倫理学会誌』22, 237-251.

中野千秋 (2013) 「日本企業のグローバル化に向けて：管理者の倫理観に関する実態調査をもとに」日本経営倫理学会監修, 小林俊治・高橋浩夫編 『グローバル企業の経営倫理・CSR』(pp.169-183) 白桃書房

Zhou, Z., Nakano, C., Luo, B. N. (2012). Global survey of business ethics in training, teaching and research: East Asia. In Rossouw, D & Stckelberger, C. (Eds.), *Global Survey of Business Ethics in Training, Teaching and Research* (pp.301-350), Globethics.net Global 5.

Zhou, Z., Nakano, C., Luo, B. N. (2011). Business ethics as field of training, teaching, and research in East Asia. *Journal of Business Ethics*, 104(1), 19-27.

中野千秋・山田敏之 (2009) 「我が国における企業倫理制度化の変遷—1996年～2008年」『Business research』1021, 80-93.

中野千秋・山田敏之・福永晶彦・野村千佳子 (2009) 「第5回・日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」『日本経営倫理学会誌』16, 151-163.

Choi, T. H., Nakano, C. (2008). The evolution of business ethics in Japan and Korea over the last decade. *Human Systems Management*, 27(3), 183-199.

Nakano, C., Yamada, T. (2008). Institutionalization of ethics at Japanese corporations and Japanese managers' views of business ethics: Comparisons with ten years ago. 麗澤経済研究, 16(1), 1-27.

Nakano, C. (2007). The significance and limitations of corporate governance from the perspective of business ethics: Towards the creation of an ethical organizational culture. *Asian Business & Management*, 6, 163-178.

中野千秋・山田敏之 (2006) 「日本企業における倫理確立に向けての取り組みと管理者の倫理観：10年前との比較」『日本経営倫理学会誌』13, 105-115.

福永晶彦・山田敏之・中野千秋 (2006) 「第4回・日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」『日本経営倫理学会誌』13, 91-103.

中野千秋・麗澤大学 (2006) 「企業倫理の制度化と組織風土～企業倫理確立に向けてのコンティンジェンシー・アプローチ～」『日本における企業倫理制度化と管理者の倫理観』(独) 日本学術振興協会 科学研究費補助金交付研究 (基盤研究(C)(2) 課題番号: 16530264) 報告書 pp.25-39.

中野千秋・麗澤大学 (2006) 「日本企業における倫理確立に向けての取り組みと管理者の倫理観～10年前との比較～」『日本における企業倫理制度化と管理者の倫理観』(独) 日本学術振興協会 科学研究費補助金交付研究 (基盤研究(C)(2) 課題番号: 16530264) 報告書 pp.1-23.

中野千秋 (2005) 「企業倫理の観点からみたコーポレート・ガバナンスの意義と限界～倫理的組織風土の構築を目指して～」『経営学論集』75, 17-29.

山田敏之・福永晶彦・中野千秋 (2005) 「個人の倫理的意識決定に及ぼす組織風土の影響」『麗澤経済研究』13

- (1), 105-126.
- 中野千秋 (2004) 「組織における個人の倫理的意思決定—組織倫理に関する実証研究の可能性を探る」『組織科学』37(4), 14-23.
- 中野千秋 (2003) 「日本企業における経営倫理体制の現状と課題」日本経営倫理学会 (監)・水谷雅一 (編) 『経営倫理』同文館出版
- 山田敏之・福永晶彦・野村千佳子・長塚皓右・中野千秋 (2003) 「第3回・日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」『日本経営倫理学会誌』10, 39-57.
- 中野千秋・山田敏之 (2003) 「日本における企業倫理制度化の現状と課題—日本経営倫理学会実証調査研究部会・定期実態調査報告—」(社) 企業研究会・研究叢書 No.121.
- 山田敏之・福永晶彦・野村千佳子・中野千秋 (2002) 「競争力／倫理性の向上に向けての組織開発：インタビュー調査による予備的考察」『日本経営倫理学会誌』9, 149-157.
- 中野千秋 (2002) 「職場の倫理問題に関する管理者の認識：倫理的組織環境の構築に向けて」『日本経営倫理学会誌』9, 159-168.
- Jackson, T. et al. (2000). Making ethical judgements: A cross-cultural management study, *Asia Pacific Journal of Management*, 17, 443-472.
- 中野千秋 (2000) 「環境ビジネスと企業倫理」(財) 機械振興協会経済研究所、『機械関連中堅・中小企業における環境ビジネス戦略：競争優位の確立と課題』第7章
- 山田敏之・福永晶彦・中野千秋 (2000) 「第2回・日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」『日本経営倫理学会誌』7, 211-232.
- Nakano, C. (1999). Attempting to institutionalize ethics: Case studies from Japan. *Journal of Business Ethics*, 18(4), 335-343.
- Shioji, K. & Nakano, C. (1999). Japanese philosophical traditions and contemporary business practices. In Werhane P.H., Singer A.E. (eds) *Business Ethics in Theory and Practice* (pp. 167-176). Springer, Dordrecht.
- 山田敏之・福永晶彦・野村千佳子・高巖・梅津光弘・中野千秋 (1999) 「21世紀の企業と社会に関する学生の意識調査：倫理基準適用の実態と属性間分析」『日本経営倫理学会誌』6, 109-121.
- 中野千秋 (監) (1998) 「‘個人の良識’と‘会社における立場’—企業倫理に関する日本のビジネスマンの意識調査」『日本経営倫理学会誌』5, 67-79.
- 中野千秋・山田敏之・野村千佳子 (1998) 「企業倫理 日本における企業倫理システム確立の現状—企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」『Business research』889, 74-83.
- 山田敏之・野村千佳子・中野千秋 (1998) 「第1回・日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査報告」『日本経営倫理学会誌』5, 145-159.
- Nakano, C. (1997). A survey study of Japanese managers' views of business ethics. *Journal of Business Ethics*, 16(16), 1737-1751.
- 中野千秋 (1997) 「経済倫理学への招待」『麗澤学際ジャーナル』5(1), 7-30.
- Park, H.J., Nakano, C., & Lee, J. (1997). Business ethics in the United States, Japan, and Korea: A comparison of the idiosyncratic and overlapping contexts. *Proceeding for the 14th Pan Pacific Conference*.
- 中野千秋 (1996) 「日本における企業倫理制度化の有効性に関する一考察」『組織科学』30(2), 59-69.
- 中野千秋 (1996) 「『環境不測時代の経営』に関するアンケート調査 (2)」『三田商学研究』39(2), 197-222.
- 中野千秋 (1995) 「日本企業における管理者の倫理観—米国管理者との比較において」『生活者優先社会に向けて』経済社会学会年報第17号.
- 中野千秋 (1995) 「実証研究：企業管理者の倫理観に関する日米比較」『麗澤学際ジャーナル』3(1), 29-50.
- 中野千秋 (1995) 「広池千九郎の企業因果律思想—企業因果律の社会科学実証研究の可能性を探る—」『モラロジー研究』41, 49-83.
- Nakano, C. (1991). An emerging view of organizational behavior and development studies: Edgar H. Schein's theory of organizational culture. *Studies in Moralogy*, 33, 118-157.
- Nakano, C. (1989). Principles of humanistic enterprise in Japan: A new economic system of the future. *Futures*, 21(6), 640-646.
- 中野千秋 (1988) 「広池千九郎と中野金次郎」『モラロジー研究』25, 187-216.
- 中野千秋・永安幸正 (1986) 「日本的経営論の系譜—比較企業文化論の試み—下」『麗澤大学紀要』43, 235-261.
- 中野千秋・永安幸正 (1986) 「日本的経営論の系譜—比較企業文化論の試み—上」『麗澤大学紀要』42, 165-184.
- 中野千秋・永安幸正 (1986) 「比較企業文明論の時代：日本の経営論争の宿題から」(財) 日本生産教育協会経営行動研究所 『経営行動』1986年冬季号 (第4号)
- 中野千秋 (1985) 「QWL概念の本質に関する一考察：R. E. WaltonのQWL論を中心として」法政大学大原社会問題研究所・社会労働問題研究センター 『研究資料月報』316, 55-72.
- ワーキング・ペーパー
- 中野千秋・山田敏之・福永晶彦 (2019) 「非倫理的行為と組織の倫理風土」『麗澤大学企業倫理研究センター・ワーキングペーパー』No. 20
- 中野千秋・山田敏之・福永晶彦 (2014) 「組織の倫理風土の定量的測定に関する研究」『麗澤大学企業倫理研究センター・ワーキングペーパー』No. 12
- 横田理宇・中野千秋 (2012) 「組織公正と従業員の倫理的行動に関する実証研究」『麗澤大学企業倫理研究センター・ワーキングペーパー』No. 9
- 中野千秋・山田敏之・福永晶彦・野村千佳子・長塚皓右 (2004)

「産学共同プロジェクト～倫理的企業風土確立に向けての組織変革～」『麗澤大学経済社会総合研究センター・ワーキングペーパー』No. 13

## 訳書

R・T・ディジョージ (1995) 永安幸正・山田経三 (監訳) 『ビジネス・エシックス』明石書店 (第15章「労働者の権利：雇用、賃金、組合」担当)

## その他

- 中野千秋 (2015) 「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」『日本道経会通信』365, 1-2.
- 中野千秋 (2015) 「良識あるビジネスパーソンが判断を誤るとき～行動倫理学の視点から～」『日本道経会通信』339, 1-2.
- 中野千秋・藤沢久美 (2015) 「<対談>中小企業のもちこたえる力～永続の国・日本に学ぶ、ブレない経営とは」公益財団法人モラルロジー研究所『道経塾』95, 16-21.
- 中野千秋 (2014) 「人を大切に作る経営」『日本道経会FAX情報』314, 1-2.
- 中野千秋 (2012) 「やっぱりC.I.バーナードは偉大だった!」『日本道経会FAX情報』221, 1-2.
- 中野千秋 (2011) 「企業倫理の確立 (2)」道徳科学研究センター編『現代の倫理道徳Q & A』(財)モラルロジー研究所, 252-257.
- 中野千秋 (2011) 「企業倫理の確立 (1)」道徳科学研究センター編『現代の倫理道徳Q & A』(財)モラルロジー研究所, 246-251.
- 中野千秋 (2010) 「省庁のコンプライアンス風土改革に向けて～企業変革に学ぶ「危機感共有」の必要性～」国土交通省関東地方整備局発注者網紀保持委員会.
- 中野千秋 (2010) 「企業倫理シンポジウム I : 変わる企業と経営者の哲学～食の安全と消費者の信頼獲得に向けて～」麗澤大学『麗澤教育』16, 42-50.
- 中野千秋 (2009) 「JABESの研究部会 (実証調査研究部会) 紹介 日本における企業倫理制度化に関する定期実態調査: 1996年～2008年」(社) 経営倫理実践研究センター『経営倫理』56, p.42.
- 中野千秋 (2009) 「企業倫理の確立について (2)」(財)モラルロジー研究所道徳科学研究センターのホームページ「現代の倫理Q & A」  
[http://rc.morology.jp/qa/2009\\_94.html](http://rc.morology.jp/qa/2009_94.html)
- 中野千秋 (2009) 「企業倫理の確立について (1)」(財)モラルロジー研究所道徳科学研究センターのホームページ「現代の倫理Q & A」  
[http://rc.morology.jp/qa/2009\\_93.html](http://rc.morology.jp/qa/2009_93.html)
- 中野千秋 (2008) 「日本における企業倫理—この二十年の変遷」慶應義塾大学出版会『三田評論』1114, 26-34.
- 中野千秋 (2008) 「己の信ずることに命がけ—永安幸正先

生を悼む—」『麗澤経済研究』16(1), vi-vii.

- 中野千秋ほか (2007) 「企業倫理に関する実務研修会: 内部通報制度～その仕組みと運用上の問題～」(社) 日本貿易会『日本貿易会月報』648, 57-66.
- 中野千秋 (2006) 「モラルロジーの科学性について—科学にこだわり, 科学を超える—」モラルロジー研究所出版部 (編)『廣池千九郎の行迹77篇』(財)モラルロジー研究所, 120-122.
- 中野千秋 (2006) 「通運王・中野金次郎と廣池博士」モラルロジー研究所出版部 (編)『廣池千九郎の行迹77篇』(財)モラルロジー研究所, 114-116.
- 中野千秋 (2006) 「企業のリスク管理と消費者の安全② ジョンソン&ジョンソンのタイレノール事件の教訓」国民生活センター『国民生活』36(5), 23-26.
- 中野千秋 (2005) 「日本における企業倫理制度化の現状と課題—第4回定期実態調査報告 (速報)」『日本道経会FAX情報』59.
- 中野千秋 (2004) 「研究部会の紹介③: データ主義貫き経営倫理を研究・実証調査研究部会」BERCニュース第5号, 経営倫理実践研究センター.
- 中野千秋 (2004) 「良識あるビジネスパーソンが判断を誤るとき」『日本道経会FAX情報』32.
- 中野千秋 (2004) 「実証調査研究部会の研究活動10年」日本経営倫理学会 (編)『日本経営倫理学会10年史—経済と倫理の合一をめざしたあゆみ』68-72.
- 中野千秋 (2002) 「企業倫理で競争力向上か市場退出か: 大切な微妙な価値判断を瞬時に行なうための企業風土」(社) 日本経営協会『オムニ・マネジメント』11(6).
- 中野千秋 (2001) 「倫理的組織風土の構築に向けて」『合理化』42(6), (社) 大阪府経営合理化協会.
- 中野千秋 (2001) 「環境問題と企業倫理の関係はどのようなものか (その2)」(財)モラルロジー研究所道徳科学研究センターのホームページ「現代の倫理Q & A」  
[http://rc.morology.jp/qa/2001\\_28.html](http://rc.morology.jp/qa/2001_28.html)
- 中野千秋 (2001) 「環境問題と企業倫理の関係はどのようなものか (その1)」(財)モラルロジー研究所道徳科学研究センターのホームページ「現代の倫理Q & A」  
[http://rc.morology.jp/qa/2001\\_27.html](http://rc.morology.jp/qa/2001_27.html)
- 中野千秋 (1999) 「いまこそ企業倫理教育を」『人材教育』11(10), 日本能率協会マネジメントセンター.
- 中野千秋 (1998) 「会社のためが会社を滅ぼす—不祥事対策としてのコーポレート・エシックス理論」別冊宝島編集部 (編)『経営学・入門』別冊宝島373. のち, 別冊宝島編集部編『よくわかる経営学・入門』, 宝島社文庫2000年6月として文庫化.

(原稿受領日: 2021年1月31日)

掲載承諾日: 2021年2月14日)